

モーラン・カドゥー語の民話「金持ちと貧乏人の息子」

藤原敬介

京都大学

主要語句：モーラン・カドゥー語、カドゥー語、民話

1 はじめに

1.1 資料について

本稿ではビルマ・ザガイン管区ピンレーブー県ではなされるモーラン・カドゥー語 (Molang Kadu: チベット・ビルマ語派ルイ語群) の民話を語釈をつけて紹介する。この民話は、ピンレーブー県のミャウツモー村で 30 代男性である KA さんから 2020 年 3 月にきかせていただいたものである。かきおこしについても、KA さんにご協力いただいた。民話には題名がついていないので、内容に即して「金持ちと貧乏人の息子」という題名を筆者がつけた^{注1}。録音には Roland 社の R-09 を使用し、16bit・44.1kHz で録音した。民話本文は 3 分 30 秒ほどである。

1.2 モーラン・カドゥー語と先行研究

モーラン・カドゥー語とは、カドゥー語 (Kadu: ISO 639-3 zkd) における三つの主要な方言のひとつである。三つの主要な方言とは、セッター・カドゥー語 (Setto Kadu)、モーラン・カドゥー語、モークワン・カドゥー語 (Mokhwang Kadu) である^{注2}。カドゥー語の研究といえば、

^{注1} 倉部慶太氏によると、この民話と類似した民話がビルマ・カチン州の諸民族のあいだでいられている。たとえばジンポー語 (Jingpho: ISO 639-3 kac) では “Jahkrai ma hte Lalaw ma” 「孤児といじめっ子」という題名であり、非常に有名な民話であるとのことである。両者の類似点は以下のとおりであるという。

- 木の上に金持ち (カチンではいじめっ子たち) が、木の下に貧乏人 (カチンでは孤児) が罌をしかけた点。
- 孤児の罌に鹿がかかった点 (カチンの民話ではいじめっ子の罌には鳥やオオサイチョウがかかったとされる)。
- いじめっ子が先に来て木の上の罌に鹿を付け替えた点。
- 裁判官 (カチンでは裁判官・うさぎ・ふくろうなどいくつかの変種がある) が遅れてきて、来る途中で砂地が燃えているのを見たと言った点。
- 砂地が燃えるのはありえないと言った人々に対して、木の上に鹿がかかるのはありえないと言り返した点。

このジンポー語の民話は、オーストラリアの危機文化アーカイブ PARADISEC にある Kurabe [2013] のなかで KK1-0001 として公開されており、音声、書き起こし、英語による概要が参照可能である。また、音声と書き起こしのみであるけれども、KK1-0042、KK1-0086、KK1-0095、KK1-0261、KK1-0372 にも同様の民話が公開されている [倉部慶太直談・2019-04-03]。

^{注2} セッター・カドゥー語については、さらにセッター・カドゥー語とモーティツ・カドゥー語 (Moteik Kadu) とにわけることができる。ただし、モーティツ・カドゥー語については、まだ筆者の手元にまとまった資料がない。モーラン・カドゥー語については、さらにモーラン・カドゥー語とモーカー・カドゥー語 (Mokha Kadu) とにわけることができる。両者は一部の語彙や音対応に若干の相違があるけれども、おおむね相互理解可能である。

実質的にはセッター・カドゥー語の研究であり、初期の報告である Houghton [1893] や Brown [1920]、Grierson [1921]、文法を包括的に記述した Sangdong [2012]、音韻論をあつかった藤原 [2013] と Khin Moe Moe [2014] などがある。モークワン・カドゥー語については、ガナン語 (Ganan: ISO 639-3 zkn) をふくむカドゥー諸語 (Kadu languages) における位置を考察した藤原 [2015] や、モークワン・カドゥー語東部方言の音声学をあつかった藤原 [2019] がある。モーラン・カドゥー語については基礎語彙を提示した Luce [1985]、初歩的な音韻論をあつかった Huziwarra [2019] がある。

1.3 モーラン・カドゥー語の言語状況

モーラン・カドゥー語地域は、西端のシュウェヘンダー村とコーター村ではビルマ人との共住がすすみ、ビルマ語化が進行し、若年層ではカドゥー語が継承されなくなっている。しかし、他の地域では、日常的にモーラン・カドゥー語が使用されている。ただし、それらの地域でも、モーラン・カドゥー語の話者は、ほぼ全員がビルマ語との二言語使用者である。したがって、ビルマ語からの借用語が多用される。ビルマ語からの借用語はもっぱら内容語である。他方、赤タイ語 (Tai Naing: ISO 639-3 tjl) からの借用語もある。赤タイ語からの借用語では、内容語のみならず機能語も散見されるものの、モーラン・カドゥー語話者で赤タイ語にも堪能である人はいないとおもわれる。

ところで、モーラン・カドゥー語地域では、カドゥー語を表記する文字として作成された「ウルシ文字」^{注3}が子どもたちに対して教育されており、若年層は「ウルシ文字」で読み書きができる。ウルシ文字表記によるカドゥー語の看板がミャウツモー村などにみられる。

2 表記上の注意

2.1 音素表記

本稿におけるモーラン・カドゥー語は筆者による音素表記である。

モーラン・カドゥー語の音素は /p*, ph, b, t*, th, d, c [tɕ], ch [tɕʰ], j [dʒ], k, kh, g, ʔ*, s, sh [sʰ], z, ɕ, h, m*, n*, ŋ*, l, w**, y**, i, e, ɛ, a, ɔ, o, u, ə/ である。* は末子音としてもあらわれうるものを、** は子音連続の第二要素としてあらわれるものをしめす。このほか、閉音節でのみあらわれる二重母音として /ai, ou/ がある。声調としては低声調 (重アクセント記号 でしめす)、中声調 (アクセント記号なし)、高声調 (鋭アクセント記号 [´]でしめす)、下降調 ^{注4} (曲アクセント記号 [^]でしめす) が弁別的である。このうち、下降調は原則としては中声調に後続する低声調が変調したものであり、二次的なものである。

^{注3} 「ウルシ」とはカドゥー語で「星」を意味する *ʔuluɕi* に由来する。この文字を考案した人の愛称が「星」であることから、考案した文字に「星」*ʔuluɕi* と名づけたという。ウルシ文字はインド系文字の一種であるといえる。カドゥー語を表記できるように工夫されているけれども、カドゥー語にある四種類の声調のすべてをかきわけすることはできないようである。ウルシ文字の見本として看板の写真を本稿末尾に附録として掲載した。

^{注4} 下降調において母音は緊喉母音となる。

モーラン・カドゥー語は、標準的なカドゥー語であるセッター・カドゥー語と比較して、文法的にはほとんどおなじであるといつてよい。ただし、音声的には、有声阻害音が音素的であるという点において、音素的ではないセッター・カドゥー語と異なる〔藤原 2019, Huziware 2019〕。

2.2 連声

2.2.1 有声交替

筆者の観察によれば、モーラン・カドゥー語では有声交替 (voicing alternation) が観察される。モーラン・カドゥー語における有声交替は、同一音韻語において、声門閉鎖音以外の音に後続する無声阻害音が対応する有声阻害音に交替するというものである。具体的には、 $p > b$ 、 $c > j$ 、 $t > d$ 、 $k > g$ 、 $s > z$ といった有声交替が観察される。典型的には、複合語における後部要素の初頭子音や、附属語である機能語の初頭子音が有声交替をおこす。ただし、確認されている範囲では、方向格標識の $=pà$ と複数形標識の $=te$ は、有声交替しうる環境にあつても有声交替しない^{注5}。

2.2.2 変調

筆者の観察によれば、セッター・カドゥー語にみられるものと同様の変調がモーラン・カドゥー語にもみられる。主要な変調は、以下にしめすとおりである。これらのうち、1、2、3 はほぼ例外なく適用される。4、5、6 はおなじ話者でも発話速度や状況により、適用されることもあれば、されないこともあるようである^{注6}。

1. 高声調に後続する中声調は低声調となる ($M \rightarrow L / H _$)
2. 中声調に後続する低声調は下降調となる ($L \rightarrow F / M _$)
3. 中声調と高声調とが連続するあとに中声調があるとき、縮約して全体が中声調・中声調・下降調となる ($MH+M \rightarrow MMF$)
4. 高声調と低声調が連続するとき、縮約して全体が中声調と下降調になる ($HL \rightarrow MF$)
5. 多音節語において、中声調に先行または後続する高声調が中声調になる ($HM/MH \rightarrow MM$; 多音節語のとき)
6. 機能語において、低声調に後続する高声調は低声調となる ($H \rightarrow L / L _$; 機能語のとき)

^{注5} なお、セッター・カドゥー語において有声阻害音は音素的ではないけれども、音声的にはきかれうる。すなわち、有声交替しうる環境にあれば、セッター・カドゥー語でも有声阻害音がきかれうる。そして、方向格標識の $=pà$ や複数形標識の $=te$ も、有声交替しうる環境にあれば、セッター・カドゥー語では音声的には対応する有声音できかれうる。この点で、モーラン・カドゥー語とは異なっている。

^{注6} おなじ語であっても声調が異なつて表記される理由は変調による。また、ビルマ語などからの借用語であっても、変調が適用される。したがつて、たとえばビルマ語では高声調である語が本稿におけるモーラン・カドゥー語では中声調で表記されていることがあるのは、変調の影響による。なお、カドゥー語にみられる変調についてくわしくは、セッター・カドゥー語の音韻論をあつかった藤原 [2013] を参照。

2.3 その他

レイ祖語における*-m と*-n が-n に、*-p と*-t が-t に合流する傾向が、特に 50 代以下の若年層において顕著にみられる。この傾向は、モーラン・カドゥー語だけでなく、セッター・カドゥー語やモークワン・カドゥー語においてもよくみられる特徴である。

3 民話本文と語釈

以下に民話本文に語釈をつけたものを提示する。日本語としては不自然であっても、直訳にちかい形式で訳をつけている。また、同一形態素が文中の位置によって機能が異なることがあっても、おなじ語釈で統一している。典型的には、完了をあらわす=*pán*/=*bán* は、継起あるいは条件の標識としても使用されうるけれども、いずれの場合でも PRF とのみ語釈をつけている。また、名詞化標識の=*pén*/=*bén* は、属格や名詞修飾節の標識としても使用されるけれども、本稿では一貫して NMLS とのみ語釈をつけている。

- (1) ?əsà?+pouŋbyen =gá, məʔédouŋ, shwaŋ+sha =yau?=*nâ* sháŋŋéshà+sha,
 Kadu+story =TOP long ago rich.man+son =COM=EMPH poor.man+son
 pəháŋchán thà -jǐ =mədà?.

friend happen -VPL =RLS.HS

カドゥーのお話は、昔々、金持ちの息子と貧乏人の息子が、友人になったそうです。

注 -jǐ=mədà? < -jǐ=ma=dá? ‘-VPL=RLS=HS’ である。このように、=ma=dá? はしばしば縮約して=mədá? となる。声調は、おおむね、=mədá? の直前に高声調があれば=mədà? と変調し、それ以外の環境では変調しないようである。

- (2) ?ànda? pəháŋchán yà?-?à =má=dè tòuŋ -jǐ =məshà=gà, kəsì+hám
 3PL friend CL:day-one =time=OBJ meet -VPL =time.EMPH=TOP trap+entrap
 pyaiŋ-də -jǐ -thà =mà=nyè ŋó -jǐ =mədà?.

compete-LBV -VPL -must =RLS =QUOT say -VPL =RLS.HS

彼ら友人は、ある日、出会った時、罠をしかける競争をしようと言ったそうです。

注 1 目的格標識の=*te*/=*de* は、時をあらわす場合にも使用されうる。

注 2 tòuŋ は kətòuŋ という形式が一般的である。

注 3 =məshà < =má=shà < =má=sha ‘=time=EMPH’ である。

注 4 pyaiŋ はビルマ語からの借用語。カドゥー語においては、動詞が借用されると、「つなぎ」要素として-də/-tə (< -dó/-tó) という語源不明の形式があらわれる。

- (3) kəleŋ-hú dəbɔ tu-də =ban =nâ=?à, kəsì+hám [hám-thà=mà=nyè]
 two-CL:man opinion be.same-LBV =PRF =EMPH=TOP trap+entrap entrap-must=RLS=QUOT
 kəya=be laŋ -jǐ =mədà?.

mountain=LOC go -VPL =RLS.HS

二人は同意して、罠を [しかけるために] 山へ行ったそうです。

注 1 *kəleij* ‘two’ は、接中辞として *-əl-* が挿入されている形式である。接中辞の存在は、筆者が調査したかぎりのカドゥー諸語ではどこでも観察される改新である。

注 2 *=ban=nâ=ʔà* < *=bán=na=gá* ‘=PRF=EMPH=TOP’ ではないかとおもわれる。このように、[g] が脱落する現象は現代口語ビルマ語にも確認される [Jenny & San San Hnin Tun 2016: 25]。

注 3 [*hám-thà=mà=nyɛ*] は、いいわすれていたもの。

注 4 *laŋ* ‘go’ はモーラン・カドゥー語に特徴的な形式である。ほかのカドゥー語では一般に *naŋ* である。なお、チャック語では *laŋ* であることから、モーラン・カドゥー語の形式が古形ではないかとおもわれる。

(4) *shwaŋ+sha =gá phónkòn =sáuʔ=pè kəsì hám-màŋ =mədáʔ.*

rich+son =TOP tree =place.above=LOC trap entrap-CMPL =RLS.HS

金持ちの息子は、木の上に罾をしかけたそうです。

(5) *shaŋŋesha+sha =gá ka+pəlaʔ=pê hám-màŋ =mədáʔ.*

poor.man+son =TOP ground+be.level=LOC entrap-CMPL =RLS.HS

貧乏人の息子は、平らな地面に罾をしかけたそうです。

注 *shaŋŋesha+sha* は、(1) のように、*sháŋŋéshà+sha* と同発音される。

(6) *ʔeij =ban=nâ ŋó =bán =gò, maʔ =má=gà kəsì bɛ ha -já*

this =PRF=EMPH say =PRF =EMPH elapse =time=TOP trap make.clear walk -VPL.ANDV =mədàʔ.

=RLS.HS

それから、しばらく経過してから、(二人は) 罾を見に行ったそうです。

注 *-já* < *-jí-yà* ‘-VPL-ANDV’ である。

(7) *kəsì bɛ ha -ja =məshâ =gà, shwaŋ+sha ʔəyâŋ laŋ -phaŋ*

trap make.clear walk -VPL.ANDV =time.EMPH =TOP rich+son first go -do.in.advance =mədàʔ.

=RLS.HS

(二人が) 罾をみにいったとき、金持ちの息子がまず最初に行ったそうです。

(8) *shwaŋ+sha ʔəyâŋ laŋ -pháŋ =bán =gò, heij+kəsî=de yu-wa =má=gà,*

rich+son first go -do.in.advance =PRF =EMPH 3SG+trap=OBJ watch-ANDV =time=TOP *həmàŋ =gəzɛ̀ lù=wá.*

what =even NEG.get-NEG.PR

金持ちの息子がまず行ったところ、彼の罾を見に行ったところ、何も得ませんでした。

注 1 *heij+kəsî* < *heij+kəsì* である。なお、所有者と被所有物を標識なしに並列してもよいし、属格標識として *=bén* を介在させて *heij=bén kəsì* ‘3SG=GEN trap’ といってもよい。

注 2 *lù* < *ʔə-lù* < *ʔə-lu* ‘NEG-get’ である。否定接頭辞のあとで中声調の動詞は低声調に

変調する。ここでは、接頭辞があらわれていないけれども、低声調になっていることで、否定であることがわかる。

- (9) **shaŋŋeŋsha+sha kəsì=pà yu-wa =məshâ=gà, ʔəchí nu-wa lu-nem**
 poor.man+son trap=ALL watch-ANDV =time.EMPH=TOP barking.deer CL:animal-one get-CONT
=mədàʔ.

=RLS.HS

貧乏人の息子の罾の方へいってみると、ほえ鹿が一頭得られていたそうです。

注 有声交替 (2.2.1) でのべたように、方向格=pàは、有声交替しうる環境にあっても有声交替しない。

- (10) **ʔeiŋ=ban=nâ ŋó=bán=gò, heij=gá ʃouŋ-də=bán=dá, ŋó=bán=nà=ʔà,**
 this =PRF=EMPH say=PRF=EMPH 3SG=TOP lose-LBV =PRF=EMPH say=PRF=EMPH=TOP
 それから、彼（金持ちの息子）は負けてしまう、ということ

- (11) **shaŋŋeŋsha+sha =ben=nâ kəsì=be lu-ném =bén=nà ʔəchí=dè ʔá**
 poor.man+son =NMLS=EMPH trap=LOC get-CONT =NMLS=EMPH barking.deer=OBJ loosen
=bán=nə=ʔà, heij phónkòn =sáuʔ=pè hám-pé =bén=nà kəsì=be laŋ
 =NMLS=EMPH=TOP 3SG tree =place.above=LOC entrap-put =NMLS=EMPH trap=LOC go
=ban=nâ=ʔà, ʔóm-pé-yàŋ =mədàʔ.

=PRF=EMPH=TOP hold-put-CMPL =RLS.HS

貧乏人の罾のところに得られていたほえ鹿をはずして、彼が木の上にしかけた罾のところへ行って、掴んでおいたそうです

注 名詞化標識の=pén/=bénは属格標識としても使用される。これは、チャック語やガナン語にもみられる、ルイ語群の特徴といえる。なお、名詞化標識として=pén/=bénをもちいるのは、セッター・カドゥー語とモーラン・カドゥー語における改新である。モークワン・カドゥー語やガナン語では=kaという形式が使用され、ルイ祖語にもさかのぼる。=pén/=bén ‘=NMLS’は、赤タイ語のコピュラである *pen*⁴ [Marseille 2019: 65] から借用されているものとおもわれる。

- (12) **ʔeiŋ=ban=nâ ŋó=bán=gò, ʔàn=náiʔ=mà tàŋŋ=de maʔ =məshâ=dè=gá,**
 this=PRF=EMPH say=PRF=EMPH this=EMPH=time morning=OBJ elapse =time.EMPH=OBJ=TOP
shaŋŋeŋsha+sha =gá kəsì=be ji-yaʔ-khaŋ =mədàʔ.

poor.man+son =TOP trap=LOC come-AUX-again =RLS.HS

それから、その時の朝に、貧乏人の息子は罾のところにまた来たそうです。

注 1 *ji* は *di* ‘come’ の異形態。なお、*di* ‘come’ はモーラン・カドゥー語に特徴的な形式である。ほかのカドゥー語では一般に *li* であることから、モーラン・カドゥー語の形式が改新であるとおもわれる。

注 2 -*yaʔ* はなんらかの移動にかかわる助動詞であるけれども、意味はよくわかっていない。

- (13) **heij+kəsî=be yu-win =məshâ=gà, heij+kəsî=be ?əchí lu=bén=gà**
 3SG+trap=LOC watch-VEN =time.EMPH=TOP 3SG+trap=LOC barking.deer get=NMLS=TOP
mínshəhà =mədə?

understand =RLS.HS

彼の罾のところに來てみると、彼の罾のところにほえ鹿が得られたということがわかったそうです。

- (14) **?eij=záj ɲó=dídà, ?əchí=gá ?ə-bò=bàn.**

this=EMPH say=even barking.deer=TOP NEG-exist=PRF

そうはいつでも、ほえ鹿はすでにありませんでした。

注 ?ə-bò ‘NEG-exist’ は否定のみで使用される存在動詞である。

- (15) **?ənèij ɲó=bán=nà ɲó=bán=gò, shway+sha ham-pɛ=bên kəsî=pà=be**
 like.this say=PRF=EMPH say=PRF=EMPH rich+son entrap-put=NMLS trap=ALL=LOC
yu-win =mədə?

watch-VEN =RLS.HS

そうしてからという、金持ちの息子がしかけておいた罾の方へ來てみたそうです。

注 ?ənèij < ?àn=nèij ‘this=ESS’ である。なお、?àn は赤タイ語で名詞化標識である *an*² [Marseille 2019: 81] からの借用語であるとおもわれる。

- (16) **?ənái?məshà shway+sha =yau?=ná tòuɲ-jí =mədə?**

at.that.time rich+son =COM=EMPH meet-VPL =RLS.HS

そのとき、金持ちの息子と出会ったそうです。

注 ?ənái?məshà < ?àn=nái?məshà ‘this=EMPH=time.EMPH’

- (17) **shwáj+shà =hèt ɲó =mədə?**

rich+son =ABL say =RLS.HS

金持ちの息子から言ったそうです。

注 =hèt < =hét ‘=ABL’ は赤タイ語の *het*¹ ‘do’ [Marseille 2019: 145] から借用されているかもしれない。

- (18) **“ɲa+kəsî=be=gá ?əchí lu=bán.**

1SG+trap=LOC=TOP barking.deer get=PRF

「私の罾に、ほえ鹿をすでに得た。

- (19) **ɲa=gá naɲ=de ná=bán, ɲa=gá ?əchí lu=bén =təwá?”, ɲó =mədə?**

1SG=TOP 2SG=OBJ win=PRF 1SG=TOP barking.deer get=NMLS =because say =RLS.HS

私はお前にすでに勝った、私はほえ鹿を得たので」といったそうです。

(20) **?eiŋ=ban=nâ ɲó=bán=gò, sháŋgěshà+sha =gá “?àn=bén=nà=gà ?ə-chì**

this=PRF=EMPH say=PRF=EMPH poor.man+son =TOP this=NMLS=EMPH=TOP NEG-be.right
-du =wá.

-be.possible =NEG.PRD

すると、貧乏人の息子は、「それは正しくない。

注 -du ‘-be.possible’ は、du ‘get’ が文法化した形式である。‘get’ には *lu* という異形態もあり、むしろそちらのほうが普通である。du という形式は、モーラン・カドゥー語の中でも、本資料の話者がいるミャウツモー村特有の形式であるかもしれない。モーラン・カドゥー語の中でもモーラン村や、ほかのカドゥー語では助動詞としても -*lu* ‘-be.possible’ である。なお、本動詞の ‘get’ が助動詞として ‘be.possible’ になるのは、チャック語やガナン語にもみられるルイ語群の特徴といえる。ただし、このような文法化自体は、ジンポー語やビルマ語など周辺言語にもみられるものである。

(21) **phónkòn =sáu?=pè ɲó=bén=gà, ?əchí=gá ?ə-lù-wa-yan=ná.**

tree =place.above=LOC say=NMLS=TOP barking.deer=TOP NEG-get-ANDV-can=NEG.PRD
木の上というなら、ほえ鹿は、行って得られない。

(22) **naŋ ɲa+?əchi=dê ?á=bán=nà, ?àn=bén=bè bə-pé-yìn-nyà-thà**

2SG 1SG+barking.deer=OBJ loosen=PRF=EMPH this=NMLS=LOC put.upward-put-VEN-seem-happen
=gu.

=FUT

あなたは、私のほえ鹿をほどいてから、そこで上においてきたにちがいない。

(23) **?om-pé-yìn-nyà-thà=gu”, ɲó =mədà?**

hold-put-VEN-seem-happen=FUT say =RLS.HS

掴んでおいてきたにちがいない」と言ったそうです。

(24) **?eiŋ=ban=nâ ɲó=bán=gò, ?ànda? pəháŋcháj kəleŋ-hú ?àn=bén=bè tú=tè**

this=PRF=EMPH say=PRF=EMPH 3PL friend two-CL:man this=NMLS=LOC word=PL
nyáj-də-jí =mədà?.

quarrel-LBV-VPL =RLS.HS

すると、彼ら友人二人は、そこで、ことばを言い争ったそうです。

注 有声交替 (2.2.1) でのべたように、複数標識=*te* は、有声交替しうる環境にあっても有声交替しない。

(25) **nyip-cí =mədà?.**

quarrel-VPL =RLS.HS

言い争ったそうです。

(26) **?eiŋ=ban=nâ ɲó=bán=gò, náu?=tè=gà, shwáj+cén=bè, palá+cén=bè**

this=PRF=EMPH say=PRF=EMPH later=OBJ=TOP rich+house=LOC village.master+house=LOC
təyá swé-də-jí =mədà?

trial judge-LBV-VPL =RLS.HS

すると、あとで、金持ちの家で、村長の家で、裁判になったそうです。

注 1 この「金持ちの家」における「金持ち」とは「村長」のことをさす。すなわち、「金持ちの家」と「村長の家」は同格である。なお、「金持ちの家」の「金持ち」と、貧乏人の息子をだました「金持ちの息子」とは関係がない。

注 2 *təyá swé* はビルマ語からの借用語。

(27) **təyá swé-jí =məshà=gà, təyá swé-jí =mə máŋyà?=te=gá, shwáj+shà=pà**

trial judge-VPL =time.EMPH=TOP trial judge-LBV =time day=OBJ=TOP rich+son=ALL
=bén=nà təmisha=te, theiŋ+pala=tê, təyátùjǐ=tè=gà souŋ-də -ném-jí
=NMLS=EMPH man=PL village+village.master=PL judge=PL=TOP gather-LBV -CONT-VPL
=bán=dá?

=PRF=HS

裁判するときに、裁判する日に、金持ちの息子の（ところの）人々、村の長老たち、裁判官たちがそろっていました。

注 *təyátùjǐ*, *souŋ* はビルマ語からの借用語。

(28) **?àn=nái?=məshà=de, təyátùjǐ hò-wa =gá ?ə-jì-yà?=nùn=dà?**

this=EMPH=time.EMPH=OBJ judge CL:man-one =TOP NEG-come-AUX=still=HS
そのとき、裁判官の一人がまだきていなかったそうです。

(29) **?eiŋ =məshà, ?əchèiŋ lun-dân =məshà, təyátùjǐ hò-wa thou?-?in**

this =time.EMPH time excess-LBV.CMPL =time.EMPH judge CL:man-one arrive-VEN
=mədà?

=RLS.HS

それから、時間がたってから、裁判官一人がやってきたそうです。

注 *lun-dân* < *lun-də-?àŋ* < *lun-dó-?aŋ* ‘excess-LBV-CMPL’ である。*lun* はビルマ語からの借用語。

(30) **?àn=nái?=məshà=gà, ɲó-jí =mədà?**

this=EMPH=time.EMPH=TOP say-VPL =RLS.HS

そのとき、（人々は）言ったそうです

- (31) **pəhán, pəhán+təyátùjí=tè=gà, “màŋ=ga ʔom-nem-mâŋ=là, təyátùjí+pəhán”,**
 friend friend+judge=PL=TOP what=CQ work-CONT-CMPL=CQ judge+friend
ŋó-jí=mà=dàʔ.
 say-VPL=RLS=HS
 友人は、友人たる裁判官たちは、「何をしていたのか、友人たる裁判官よ」と言ったそうです。
- (32) **ʔàn=náiʔ=məshà=de, təyátùjí+pəhán hò-wa =hét=ká, “ʔé, shaŋbyaŋ+dóuŋ**
 this=EMPH=time.EMPH=OBJ judge+friend CL:man-one =ABL=TOP ITJ shoal+big
wan khu-nem-mâŋ=ma.
 fire burn-CONT-CMPL=RLS
 そのとき、友人たる裁判官は「えー、大きな砂州で火事がありました。
 注 *khu* ‘burn’ はモーラン・カドゥー語の中でもミャウツモー村に特有の形式である。ほかのカドゥー語では *hu* である。一般に、他のカドゥー語における *hu* は、モーラン・カドゥー語ミャウツモー方言においては *khu* で対応する。
- (33) **ʔàn=bén=nà shaŋbyaŋ+dóuŋ wan khu-nem-mâŋ=bén=nà=de ɲa=gá**
 this=NMLS=EMPH shoal+big fire burn-CONT-CMPL=NMLS=EMPH=OBJ 1SG=TOP
báŋká +míʔtù+wáʔ=yáuʔ=nà wɛ thi=bán=nà=ʔà wan=sáuʔ met-ném
 basket +eye+wide =COM=EMPH water lave=PRF=EMPH=TOP fire=place.above extinguish-CONT
-mâŋ -tha=ma,” nyè ɲó =mədàʔ.
 -CMPL -must=RLS QUOT say =RLS.HS
 その大きな砂州が燃えているのを、私は目の粗い籠で水を汲んで、火の上に（注いで）消
 してしまっていなければならなかった」と言ったそうです。
- (34) **ʔàn=náiʔ=məshà=de, pəhán+təyátùjí=tè=gà, ʔo, ʔə-chì-yan=ná.**
 this=EMPH=time.EMPH=OBJ friend+judge=PL=TOP ITJ NEG-be.right-can=NEG.PR
 そのとき、友人たる裁判官たちは、「おー、ありえない。
- (35) **naŋ, shaŋbyaŋ=de=gá wan=gá ʔə-khù=há.**
 2SG shoal=OBJ=TOP fire=TOP NEG-burn=be.able.to.NEG.PR
 お前、砂州は火が燃やせないぞ。
 注 *ʔə-khù=há* < *ʔə-khù-ha=ʔá* ‘NEG-burn-be.able.to=NEG.PR’ である。
- (36) **shaŋbyaŋ=de wan khu-ha=ma, pé,**
 shoal=OBJ fire burn-be.able.to=RLS put
 砂州を火が燃やせる、というのはさておき、
 注 *pé* の原義は「置く」という意味である。ここでは「それはさておき」という意味でもちいられている。

- (37) báunká+ mí?tù+ wá? =ká wé=gá mà=nèiŋ ?om=bán=nà sun=bán thà-ha

basket+eye+wide=TOP water=TOP what=ESS work=PRF=EMPH lave=PRF happen-be.able.to
=gəwá?

=FUT.CQ

目の粗い籠が、水はどのようにして、汲んでしまうことができるのか。

注 =gəwá? < =gu=wá? ‘=FUT=CQ’ である。gəlá? ‘=FUT.CQ というほうが普通である。

- (38) naŋ ?ə-chì-ha=bén tú=dè təbáu?=mà”, nyè ŋó =mədà?.

2SG NEG-be.right-be.able.to=NMLS story=OBJ speak=RLS QUOT say =RLS.HS

お前は、ありえない話をしている」と言ったそうです。

- (39) ?àn=nái?=məshà=de, təyátùjì hò-wa =hét=ká ŋó =mədà?.

this=EMPH=time.EMPH=OBJ judge CL:man-one =ABL=TOP say =RLS.HS

そのとき、裁判官一人から言ったそうです。

- (40) “?é, ŋa ŋó=bén=nà ?ə-chì=yá ŋó=bán=gò, həneiŋ yà?mà? təyá=bè,

ITJ 1SG say=NMLS=EMPH NEG-be.right=NEG.PRD say=PRF=EMPH 2PL today trial=LOC

yóuŋ=bè, taŋ-də pé=bén=nà ?əmú=yí=dá ?ə-thà, ?ə-chì-yan=ná.

office=LOC put.above-LBV put=NMLS=EMPH affair=too=even NEG-happen NEG-be.right-can=NEG.PRD

「えー、私が言ったことが正しくないというなら、あなたたちが今日、裁判で、事務所で、あげておいている事案さえも、ありえ、正しくありえない。

注 1 yóuŋ、?əmúはビルマ語からの借用語。

注 2 ?ə-thàは、いいよどみである。

- (41) ?ə-thà-yan=ná.

NEG-happen-can=NEG.PRD

ありえない。

- (42) mà=nèiŋ ?om=ban=nâ=?à phónkòn =sáu?=pè ?əchí lu-wa-ha

what=ESS work=PRF=EMPH=TOP tree =place.above=LOC barking.deer get-ANDV-be.able.to
=gəwá?”

=FUT.CQ

どのようにしたら、木の上でほえ鹿がえられるのか。」

- (43) ?eiŋ=nyə ŋó =mədà?.

this=ESS say =RLS.HS

そのように言ったそうです。

- (44) ?àn=nái?=yáu?=nà, sháŋŋéshà+sha=pâ=be=?á ná=lá? ?i-yaŋ=mədá?.

this=EMPH=COM=EMPH poor.man+son=ALL=LOC=EMPH win=so.as.to give-CMPL=RLS.HS

それでもって、貧乏人の息子において勝つようにしてあげたそうです。

記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
A B	A と B は条件変異
A < B	A は B に由来する
A > B	A は B に変化する
+	複合語境界
-	接辞境界
=	接語境界
1, 2	人称 (それぞれ 1 人称、2 人称)
ABL (ABLative)	奪格
ALL (ALLative)	方向格
ANDV (ANDative)	去辞
AUX (AUXiliary verb)	助動詞
CL (CLassifier)	類別詞
CMPL (CoMPLetive)	完遂
COM (COMmitative)	共同格
CONT (CONTinuous)	継続
CQ (Content Question marker)	補足疑問標識
EMPH (EMPHatic)	強意
ESS (ESSive)	様態格
FUT (FUTure)	未来
HS (Hear Say)	伝聞
ITJ (InTerJection)	間投詞
LBV (Linker for Borrowed Verbs)	借用語動詞のつなぎ小辞
LOC (LOCative)	場所格
NEG (NEGative)	否定
NMLS (NoMinaLiser)	名詞化標識
OBJ (OBJective)	目的格
PRD (PRedicate marker)	述部標識
PL (PLural)	複数
PRF (PeRFect)	完了
QUOT (QUOTation)	引用

RLS (ReaLiS)	現実法
SG (SinGular)	単数
TOP (TOPic)	主題
VEN (VENitive)	来辞
VPL (Verbal PLural marker)	動詞複数標識

附録・ウルシ文字見本



ビルマ文字（上三行）とウルシ文字（下三行）の看板
（シュウェヘンダー村にて・2015 年 2 月・藤原敬介撮影^{注7}）

^{注7} 2020 年 3 月現在、シュウェヘンダー村においてこの看板はなくなっている。

参考文献

- 藤原敬介. 2013. 「カドゥー語音韻論」『東南アジア研究』 51(1): 3-33.
- 藤原敬介. 2015. 「カドゥー語諸方言におけるモークワン・カドゥー語の位置について」『日本言語学会第 150 回大会予稿集』: 326-331.
- 藤原敬介. 2019. 「モークワン・カドゥー語東部方言における有声阻害音」『音声研究』 23(1): 83-90.
- ခင်မိုးမိုး (Khin Moe Moe). 2004. ကတူးစကားသံဖွဲ့ပုံလေ့လာချက်၊ မြန်မာစာဌာန၊ ရန်ကုန်တက္ကသိုလ်။ (A study of the phonology of the Kadu language, Ph.D dissertation, Yangon University)
- Brown, R. Grant. 1920. The Kadus of Burma. *Bulletin of the School of Oriental Studies* 1(3): 1-28.
- Grierson, George A. 1921. Kadu and its relatives. *Bulletin of the School of Oriental Studies* 2(1): 39-42.
- Houghton, Bernard. 1893. The Kudos of Katha and their Vocabulary. *Indian Antiquary* 22: 129-136.
- Huziwaru, Keisuke. 2019. A preliminary report on the Molang Kadu phonology. SEALS#29. KFC Hall, Ryogoku, Tokyo.
- Jenny, Mathias and San San Hnin Tun. 2016. *Burmese: A Comprehensive Grammar*. London and New York: Routledge.
- Kurabe, Keita. 2013. *Recordings of Jinghpaw folktales* (KK1), Digital collection managed by PARADISEC. [Open Access] DOI: 10.4225/72/59888e8ab2122
- Luce, G. H. 1985. *Phases of Pre-Pagán Burma: Languages and History*, vol. I, II. Oxford: Oxford University Press.
- Marseille, Carmen Eva. 2019. Shan-Ni grammar and process of linguistic change. Research Master Linguistics Thesis, Leiden University.
- Sangdong, David. 2012. A grammar of the Kadu (Asak) language. Ph.D. dissertation, La Trobe University.

(附記) 本稿は科学研究費補助金（課題番号 16K02691）による研究成果の一部である。

受理日 2020 年 4 月 15 日